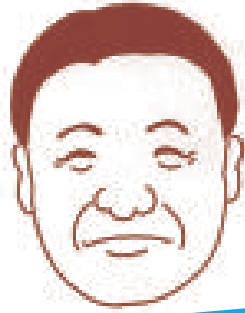


# メンバーの「横顔」

※2014年5月現在



当事務局の最古参。金庫番。2004年(平成16年)9月から勤務し、当人も本年で勤務10周年。2003年(平成15年)6月に立ち上がった読売防犯協力会で、当時設立に奔走した事務方の人たちのDNAをしっかり受け継いでいる。



遠藤 秀夫

事務局長(東京)

あらゆる場面で発揮される彼の細かな心遣いは、周囲の人とのギスギス感を取り去ってくれる。また好奇心が強く、アイデマンという側面も持ち合わせている。参与たちが逡巡する場面に遭遇しようものなら、彼の柔らかに発する射的を射た一言が、彼らの背中を押し、勇気を与えることもしばしば。今後の目標は、お酒の飲みすぎに注意し、趣味のマラソンに精を出して自己最高記録(サブ4)を目指す。

佐藤 大吉

地域貢献課(東京)



2012年(平成24年)5月より現職。当初、警察以外にも「防犯」に取り組んでいる組織の多いことに驚いていた。現在、わが国の人口減と相まった「超高齢社会」の中で、いかにしてYC(読売センター)が防犯や防災の面で、自らの身を守るとともに、地域住民の要望実現のお手伝いができるのか、地域の安心・安全作りを進めることができるのかを研究中?

他方、Y防協活動に関し、どのように一般の人々に告知を広め、認知してもらうべきかも考えているらしい。



深川 猛

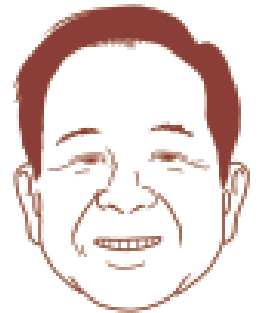
参与(東京)

鍋倉参与と同じ鹿児島出身。日本酒をこよなく愛する。これも九州男児の特性なのか—?

ちょっと見はクールに見えるが、温泉やサウナに入ることが趣味という気の優しいロマンズグレーだ。「汗をかかなきゃ、おいしいお酒は飲めません」と言っていて、決まって出張先で泊まるホテルは、大浴場やサウナのある施設。出張前には、慣れない手付きでPCを駆使してインターネット予約をしている。

深川参与! 新聞でも年に10日の休刊日があるのだから、1週間に1度くらいは休肝日を作りたいですね。あなたのために一生懸命働いている肝臓の身にもなってあげてください。よろしく願います。

「ワハハハハッ」。鹿児島生まれの九州男児の笑い声はいつも豪快だ。彼の笑い声を聞いていると、錦江湾にそびえる雄大な桜島の光景が目には浮かぶこともある。まったく細かなことにはこだわらない性格のように感じられるのだ。だが本当は、現役時代に鍛えた粘り強さ、我慢強さが彼の身上。ピ〜んと張った神経が切れてしまわないように、豪快に笑ってリラックスしているのだ。趣味のゴルフも実に豪快だ。ショートホール以外のティーショットでは、どんなときもドライバーをカー一杯振り回す。「飛ばさなきゃ、面白くないでしょ」。そう言ってニヤリと笑う。見つめる先は、はるか遠くのフェアウェイ。今日もセミナーの打ち合わせに元気に出かけた。



鍋倉 光昭

参与(東京)



横内 進

参与(東京)

柔道で鍛え上げた鋼のような肉体を持つ男。早朝から腕立てなどで筋力を鍛えているらしい。そうして鍛え上げた人一倍太い二の腕が活躍する場面に私たちが出くわすのは、ゴルフ場でのこと。ダフっているのにボールは見事にグリーンオン! 「鍛え方が違うんだ」と、誰かがそうつぶやいた。クラブそしてマイクを持たせるとセミプロ並み?

サービス精神旺盛で、世のため人のために孤軍奮闘中。